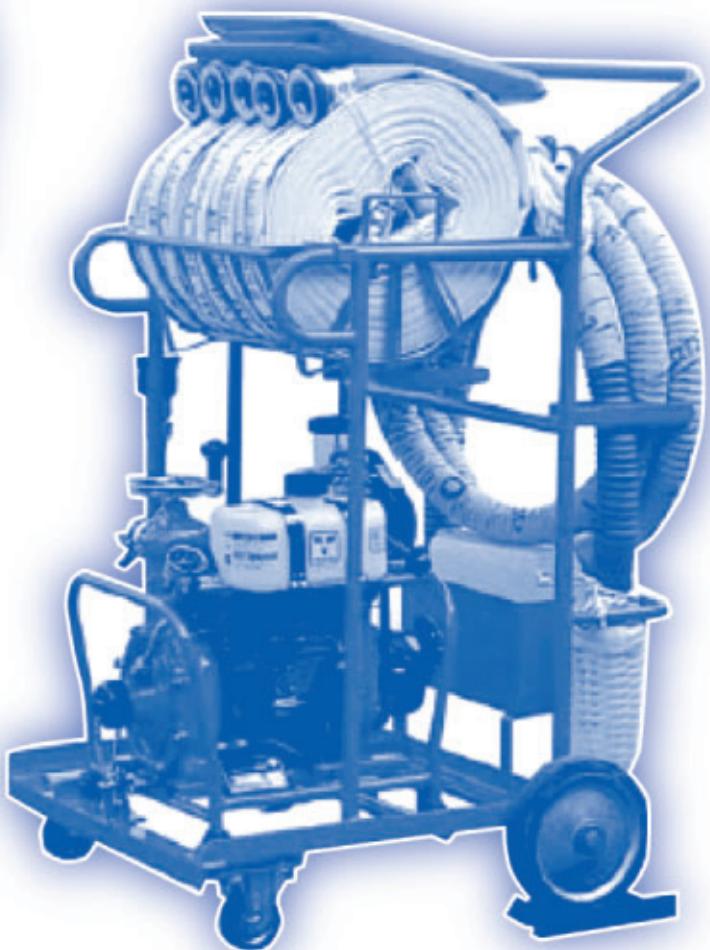
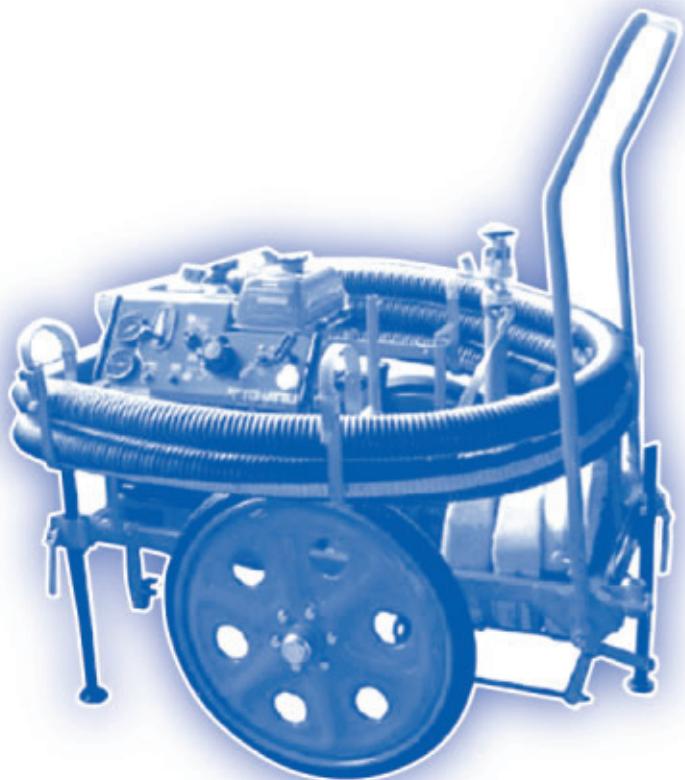


ポンプ操法マニュアル

C級ポンプ D級ポンプ



品川区

はじめに

平成23年3月11日に東日本を襲った大地震は、改めて地震の恐ろしさと地震への備えの必要性を考えさせる契機となりました。今回は津波の被害がクローズアップされましたが、ここ東京、特に木造住宅密集地区を有する品川区で首都直下型の地震が発生した時は、火災による被害が想定されています。

同じ都市型震災である阪神淡路大震災の例を見ても、大地震が発生すると、同時多発的に火災が発生します。消防機関だけでは、火災の延焼をくい止めることが難しいと予想され、地震による火災の被害を軽減するためには、地域での消火活動が有効であり、必要となります。

品川区では、現在、区民消火隊が68隊、ミニポンプ隊が185隊結成され、日々ポンプ操作訓練に取り組んでいます。しかしながら、高齢化に伴う隊員の変更などによりポンプの操法や維持管理方法などが継承されず、ポンプ隊の活動そのものが滞ってしまうことが懸念されています。

区では1990年に「ミニポンプ操法マニュアル」を作成し訓練の一助としていただきましたが、作成後20年を経過しましたので、ポンプ操法マニュアルを刷新し、D級ポンプ操法（3名、4名操法）とC級ポンプ操法（5名、6名操法）を含めたマニュアル（冊子とDVD）を作成しました。

各位におかれましては、マニュアルを日常の訓練の確認、あるいは新規入隊者への教育用に使用するなど、地域の初期消火体制の向上にご活用ください。

品 川 区

目 次

ポンプの説明

ポンプ操法準備	1
・ポンプ訓練をするときの服装	1
・ポンプ備品名称	1
・ポンプ各部名称	2
維持管理	3
・ポンプの調子が悪いときのチェックポイント	3
・ポンプ使用後の管理について（燃料抜きの手順）	5

ポンプ操法

D級ポンプ操法（3名操法）	8
1 人員、資器材及び水利等	8
2 待機、集合及び点呼	9
3 操法開始～収納	11
D級ポンプ操法（4名操法）	22
1 人員、資器材及び水利等	22
2 待機、集合及び点呼	23
3 操法開始～収納	25
C級ポンプ操法（5名操法）	36
1 人員、資器材及び水利等	36
2 待機、集合及び点呼	37
3 操法開始～収納	39
C級ポンプ操法（6名操法）	50
1 人員、資器材及び水利等	50
2 待機、集合及び点呼	51
3 操法開始～収納	53

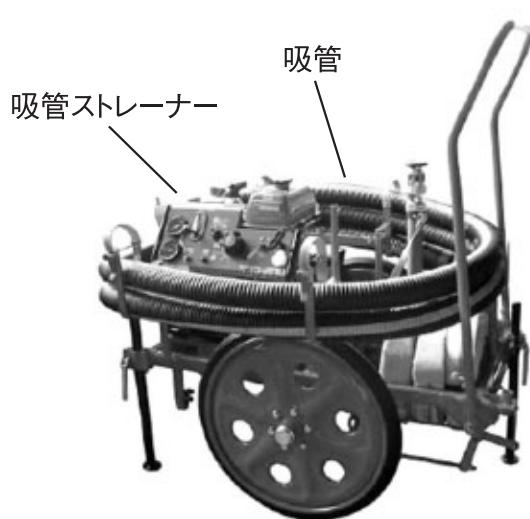
ポンプの説明

【ポンプ操法準備】

◆ポンプ訓練をするときの服装

1. 防火衣、ヘルメット、長靴の3点を必ず着用する。
(上記の3点は品川区防災課から各隊員に貸与します。)
2. 動きやすい服装にする。(ただし、実際の消火活動のときは、化学繊維製品は熱に弱いので避けること。)
3. 手袋（軍手等）を着用する。

◆ポンプ備品名称

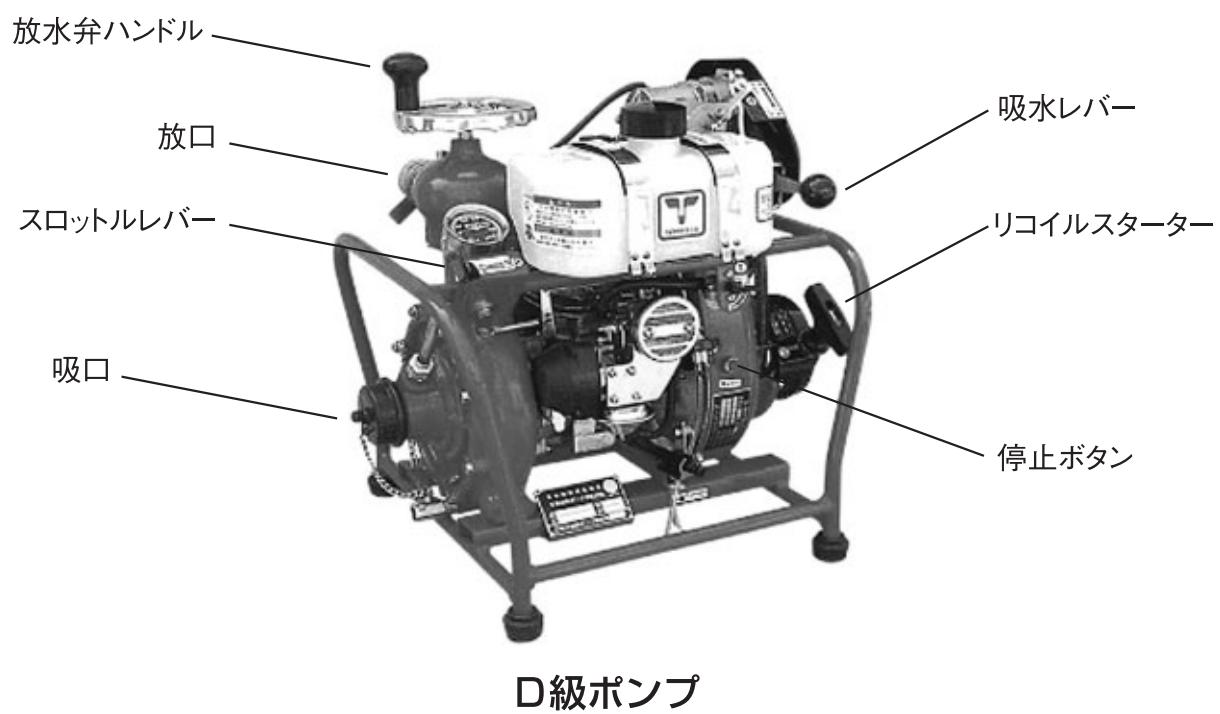
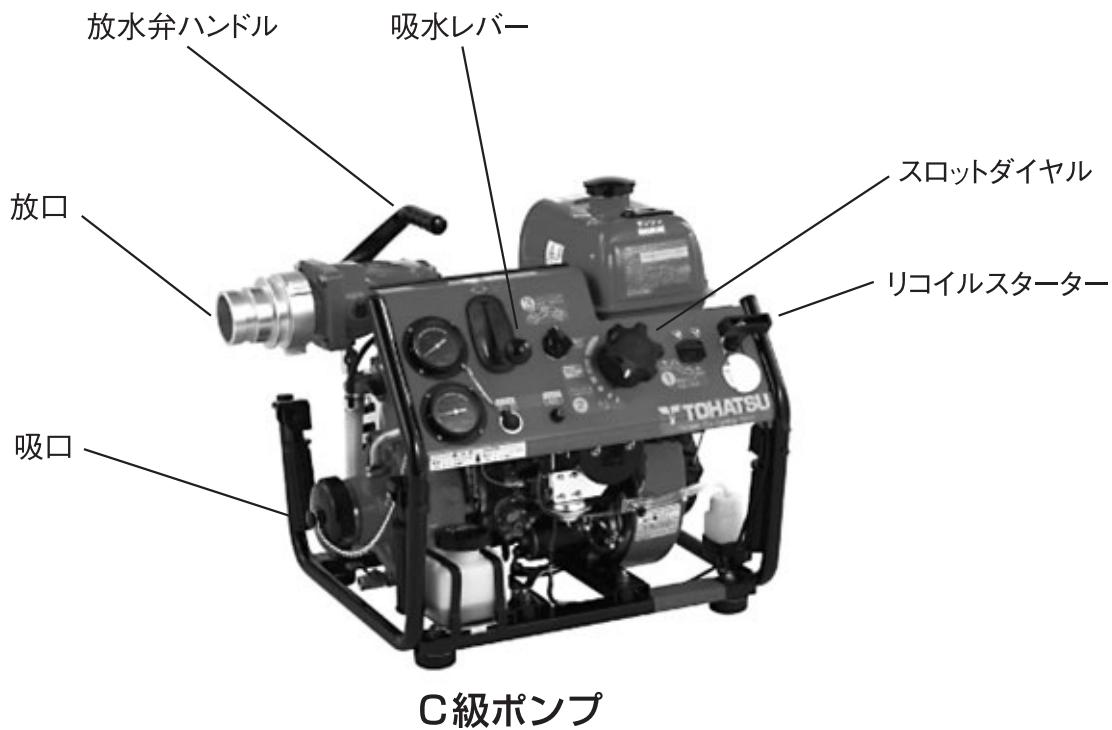


C級ポンプ



D級ポンプ

◆ポンプ各部名称



【維持管理】

◆ポンプの調子が悪いときのチェックポイント

ポンプの調子が悪いとき、次のチェックポイントを確認してください。

対応策を実施しても改善しない場合は、取扱い説明書を確認するか、品川区防災課（電話 3777-1111）まで連絡をお願いします。

1) エンジンがかからないとき（始動が困難なとき）

チェックポイント（確認項目）		対応策
1	燃料が古く、黒ずんでいたり、異臭がしていないか	燃料を新たなものに交換する。
2	キャブレターに燃料が詰まっているか	5~6ページに記載の「燃料の抜き方」で燃料を抜くことができるかを確認する。
3	点火プラグが燃料で濡れていないか (燃料を吸い込み過ぎていないか)	点火プラグを外して拭いて乾かす。 ※外すための工具は付属されています。 ※プラグの交換はしないでください。
4	(手動チョーク機の場合) 空気が入り過ぎていないか	チョークを閉じる。 ※オートチョークの場合は不要。 ※エンジンが始動したらチョークを調整する。
5	(4サイクル型C級ポンプの場合) タンクからキャブレターに燃料が供給されているか	プライマバルブ（燃料を上にあげるゴム製のバルブ）を数回、握る。

2) 吸水が困難なとき（放水圧力が低下するとき）

チェックポイント(確認項目)		対応策
1	吸管とポンプ本体の結合部が緩んでいないか（空気が入って真空状態になっていない可能性がある）	<p>①結合部を強く締める。それでも改善しない場合は、吸管を外して結合し直す。</p> <p>※特に、C級ポンプは吸管が硬いため、吸管を水利に投入した後に締め付けが緩むことがあるので注意する。</p> <p>【点検方法】</p> <p>いったん吸管を外し、吸口キャップをしっかりと取付けた後にポンプを始動。吸水レバーを引いてみて、圧力計の針がマイナス方向に振れ、吸水レバーを戻しても針がマイナスで停止し真空状態になっているかを確認。</p>
2	吸管およびポンプ本体の結合部（ネジ部）に砂などが付いていないか	吸管とポンプ本体の結合部（ネジ部）を水で洗浄してから、再度結合する。
3	水抜きコックの閉め忘れないか	水抜きコックが閉まっているかを点検。
4	(真空ポンプオイルがあるポンプの場合) オイルが入っているか	オイルが入っていない場合は、オイルを補充。

◆ポンプ使用後の管理について（燃料抜きの手順）

使用後にキャブレター内の燃料を抜かないと、キャブレターに残った燃料が詰まり故障の原因となります。良好な状態を維持するために、ポンプを使用した後は、必ず、次の要領で燃料抜きをしてください。

1) C級ポンプ(4サイクル仕様)

1. 燃料コックを閉じる。



2. 「燃料ドレンバルブ」のつまみを手前に引く。



3. 燃料が燃料タンクに流れます。
全部流れきったら完了です。



2) C級ポンプ(2サイクル仕様)

1. 燃料コックを閉じる。



2. 「燃料ドレンバルブ」のつまみを手前に引く。



3. 右側の容器に入った燃料を燃料タンクに戻して完了です。

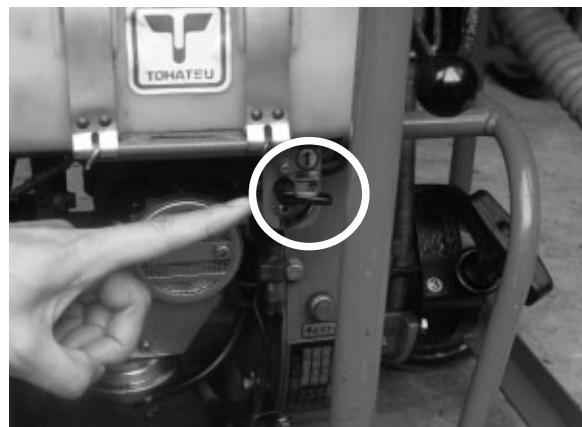


ここに示していないC級ポンプの機種は抜き方が異なります。

燃料の抜き方がわからない場合、防災課までご連絡をお願いします。

3) D級ポンプ

1. 燃料コックを閉じる。



2. 「燃料ドレンバルブ」のつまみを手前に引く。

※燃料が下から出てくるので、紙コップなどの容器で受ける（容器は各自でご準備ください）。



3. 容器で受けた燃料をタンクに戻して完了です。



ここに示していないD級ポンプの機種は抜き方が異なります。

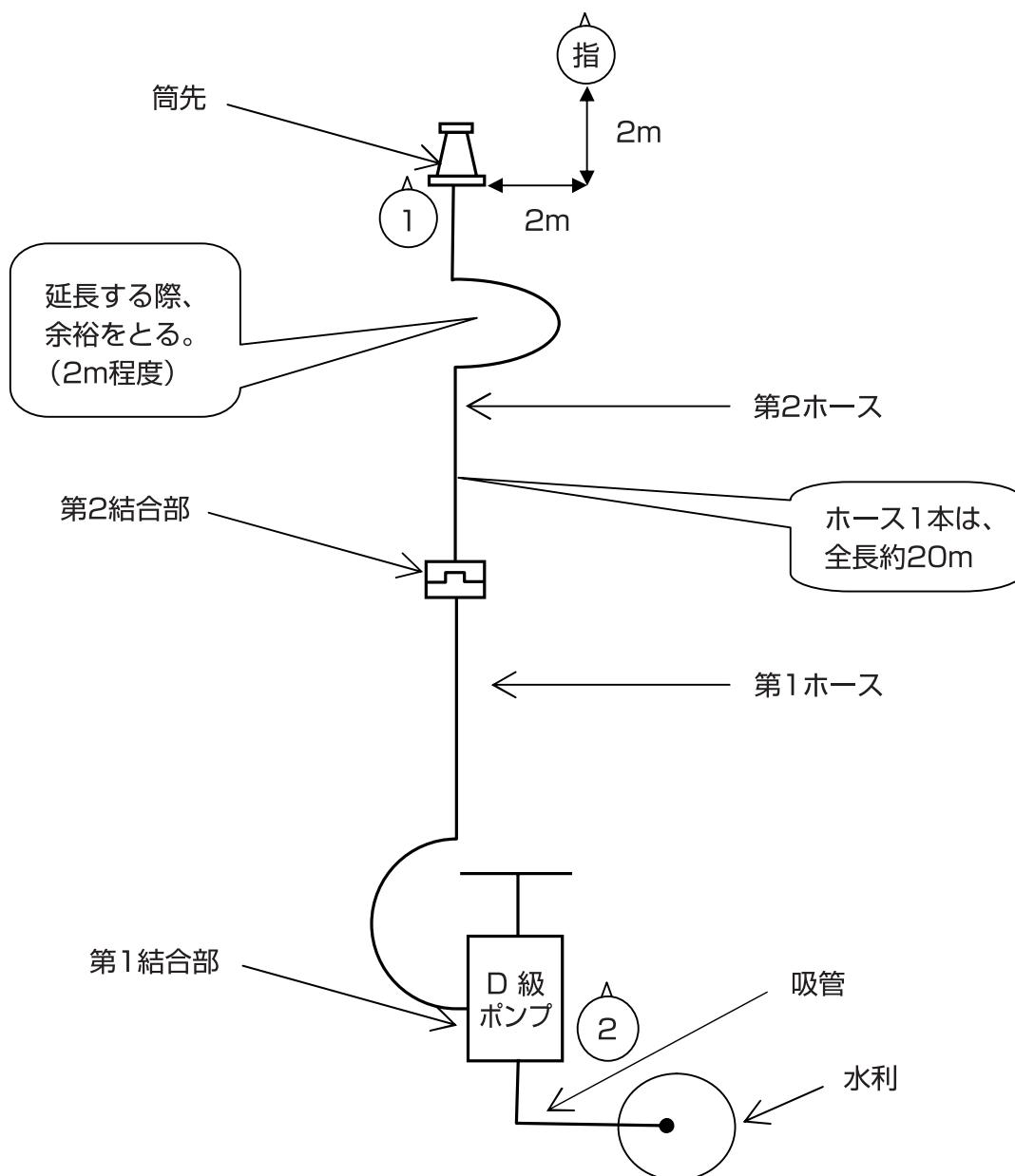
燃料の抜き方がわからない場合、防災課までご連絡をお願いします。

D級ポンプ操法（3名操法）

1

人員、資器材及び水利等

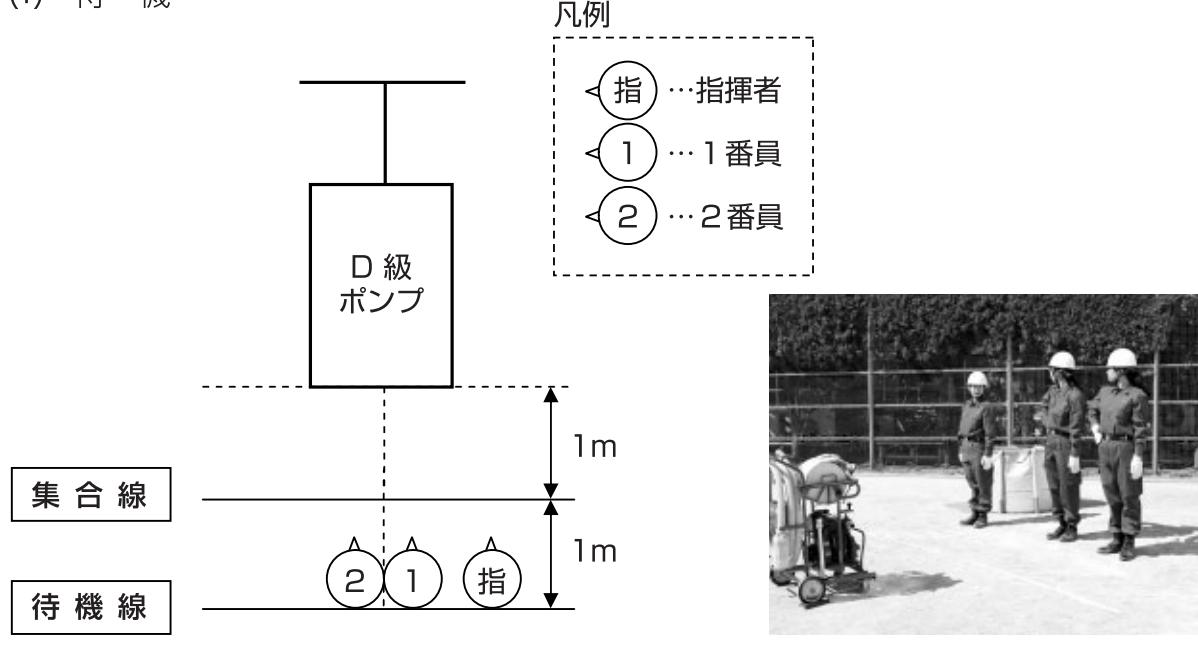
- (1) D級ポンプ操法（3名操法）に必要な人員は、指揮者1名、隊員2名とする。
- (2) D級ポンプを台車に積載した状態から操法を開始する。
- (3) 資器材は、二重巻ホース2本、筒先、吸管等を使用する。
- (4) 水利は、D級ポンプ（吸口側）から概ね2mの位置で、吸管を伸長しストレーナー一部が水利に投入できる位置とする。
- (5) ホース延長及び吸管延長は次のとおりとする。



2

待機、集合及び点呼

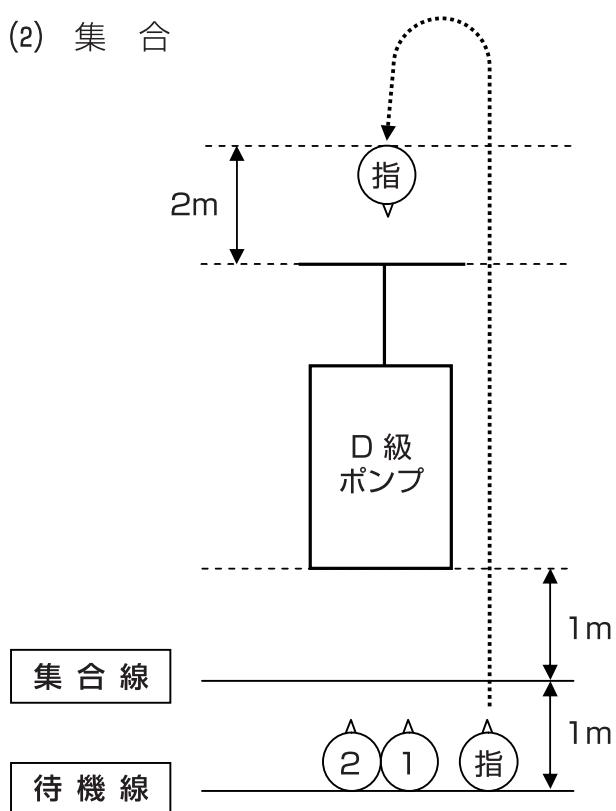
(1) 待 機



指揮者、1番員及び2番員は、集合線の後方1mの位置（待機線という。）で自主整頓を行った後、休めの姿勢で待機する。

指揮者の位置は、1番員から右側に1歩離れた位置とする。

(2) 集 合



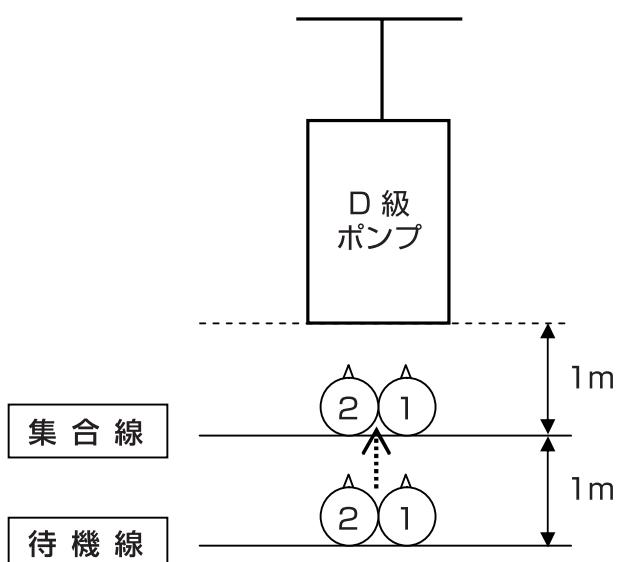
指揮者は、待機位置からポンプの右側を通り、ポンプの前方2mの位置で左に回り込んで、隊員に正対して姿勢を正す。

右手を上げ「集まれ」と号令をする（隊員が集合線に概ね揃ったら手をおろす）。



1番員及び2番員は、指揮者の「集まれ」の号令に対して「よし」と呼称し、手を腰にとり駆け足で集合線に移動する。

移動後、自主整頓を行う。整頓が完了したら気をつけの姿勢をとる。



<気をつけの姿勢>

(3) 点呼

指揮者は、隊員が気をつけの姿勢をとったら、「番号」と号令する。

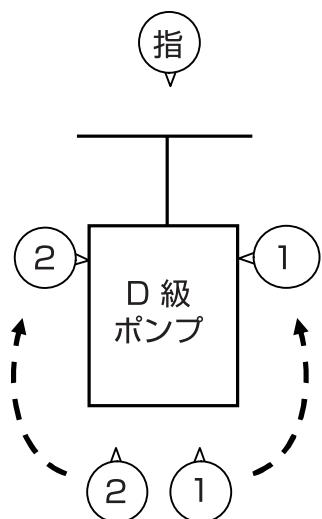
1番員及び2番員は、指揮者の「番号」の号令で、それぞれ「1」、「2」と呼称する。

3 操法開始～収納

(1) 操法指示及び定位部署

指揮者は、「只今からD級ポンプ操法を行う」と操法を指示した後、「目標、前方の火点、定位につけ」と号令する。

1番員及び2番員は、指揮者の「定位につけ」の号令に対して「よし」と呼称し、それぞれポンプ脇に移動する。移動後は、姿勢を正して待機する。



(2) 操法開始

指揮者	<p>定位についてことを確認した後、「操作始め」と号令する。</p> <p>その後、ポンプのホース棚から第2ホースを取り出し右脇に抱えた後、筒先を左手に持ち、第2結合部位置まで駆け足で進む。</p> 
1番員	<p>「操作始め」に対し「よし」と呼称し、吸管を2番員と協力してポンプ後方1mにおろした後、第1ホースを放口側におろして、ホースのメス結合部を右足で踏み、オス結合部を持ってホースを延ばす。</p> <p>※2番員だけで吸管を延ばすのが難しい場合は、1番員は吸管の延長を補助する。</p> 
2番員	<p>「操作始め」に対し「よし」と呼称し、吸管を1番員と協力してポンプ後方1mにおろした後、ヨリを戻しながら吸管を延ばす。</p> <p>その後、吸管を両足で挟むようにしてポンプの吸口に結合する。</p> <p>※一人で吸管を延ばすのが難しい場合は、1番員と協力して吸管の延長を行う。</p> 

指揮者

第2結合部位置で、筒先と第2ホースを地面に置く。

ホースのメス結合部を右足で踏み、オス結合部を持ってホースを延ばす。

オス結合部を一旦地面に置き、左足でオス結合部を踏み、筒先を結合する。



1番員

メス結合部をポンプの放口に結合した後、足元に注意しながらオス結合部を右手に持ち、駆け足で第2結合部位置に進む。



2番員

吸管結合後、吸管ストレーナーを水利に投入し、エンジンを始動させ吸水処置を行う。



指揮者

結合後、筒先を左手で右脇に保持して、右手で余裕ホースをとり、前方を注視し、1番員のホース結合を待つ。



1番員

第2結合部位置に至ったら、左足で第2ホースのメス結合部を踏み、第1ホースのオス結合部を結合し「よし」と呼称する。



2番員

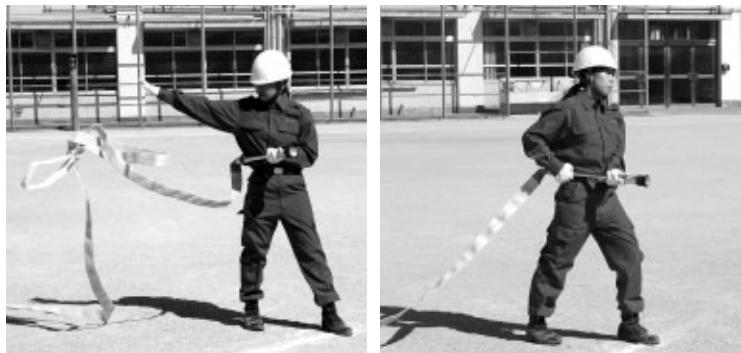
吸水完了後、ポンプ計器側で火点を向き、姿勢を正して待機する。



指揮者

1番員の「よし」の合図で「放水始め」と号令し、火点に向かって進みホースを延ばす。放水位置で余裕ホースを右手で横に投げる。

筒先を両手で保持し、左足を半歩踏み出し、前方を注視して注水姿勢をとる。



1番員

指揮者の「放水始め」の号令を復唱し、回れ右をして駆け足で2番員に伝達に行く。

ポンプの手前10mの位置から右手を真上にあげて「放水始め」と呼称し、ポンプ手前2mの位置に至ったら、手をおろし止まる。

伝達終了後、回れ右をして駆け足で戻り、指揮者の左側で停止する。

停止したら直ちに指揮者に向かって「交替」と呼称する。



2番員

1番員の「放水始め」の伝達に、右手を真上に上げて「放水始め」と復唱する。

直ちに放水弁ハンドルを開にするとともに、スロットルレバーを操作して送水を開始する。



指揮者

1番員は指揮者の左手に左手をそえると同時に、左足を1歩踏み込む。
指揮者は1番員が左手をそえた後に左手を離し、左足を1歩後方に引く。
1番員は指揮者の右手に右手をそえると同時に、右足を1歩踏み込む。
1番員は注水姿勢をとり「よし」と合図して交替する。
指揮者は1番員の「よし」の合図で筒先から右手を離すと同時に、右足を1歩後方に引き交替する。
1番員は、筒先を交替したら、左足を半歩前に出し、ひざを若干曲げながら注水姿勢をとる。



指揮者は、筒先交替後、駆け足でホースを横切って、筒先の右前方おおむね2mの位置へ移動し、火点方向を向き姿勢を正す。



1番員

送水操作終了後、ポンプ計器側で火点方向を向き姿勢を正して待機する。

※送水中は、送水圧力に異常がないか、圧力計を適宜確認する。



2番員

(3) 放水停止

指揮者

指揮者は、1番員の方向に向きを変え、「放水やめ」と号令をする。

1番員は、指揮者の「放水やめ」の号令で筒先ノズルを操作して放水を停止する。ノズル操作後、「放水やめ」と復唱する。

指揮者は、ホースを横切って1番員の左側に至り、「交替」と呼称し、1番員と筒先を交替する。

指揮者は、1番員の左手に左手をそえると同時に、左足を1歩踏み込む。

1番員は、指揮者が左手をそえた後、左手を離し左足を1歩後方に引く。

指揮者は、1番員の右手に右手をそえると同時に、右足を1歩踏み込む。



1番員

指揮者は、注水姿勢をとり、「よし」と合図して交替する。

1番員は、指揮者の「よし」の合図で筒先から右手を離すと同時に、右足を1歩後方に引き交替する。

2番員

指揮者

筒先を交替した後は、送水が停止するまで前方を注視し、注水姿勢をとる。

1番員

回れ右をし駆け足でポンプ手前2mの位置に至り停止、右手を水平に横に上げて「放水やめ」と2番員に伝達する。



2番員

1番員の「放水やめ」の伝達を受け、右手を水平に横に上げて、「放水やめ」と復唱する。

指揮者

2番員の「放水やめ」の復唱を確認したら、ノズル操作により残水を処理する。

筒先からの残水が抜けたのを確認後、筒先を折り返してホースの上に置き、指揮位置へ移動しポンプ側を向いて気をつけの姿勢で待機する。



1番員

伝達終了後、筒先位置に戻り、火点方向を向いて姿勢を正して待機する。

2番員

スロットルレバーを元に戻し、直ちに放水弁ハンドルを閉じ、エンジンを停止する。

停止後、ポンプ計器側で火点に正対し、姿勢を正して待機する。



(4) 収 納

指揮者	<p>1番員、2番員の待機状況を確認後、「おさめ」と号令する。筒先位置に移動し、ホースの結合部を右足で踏み、両手で筒先をホースからはずす。</p> <p>その後、筒先を持ってポンプまで移動する。</p> <p>指揮者は筒先をポンプに収納後、ポンプ前2mの位置につき姿勢を正して、1番員及び2番員の整列が終了するのを待つ。</p>  
1番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令で回れ右をして、ポンプ後方の集合線に移動する。</p> 
2番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令で第1ホースを離脱し、ポンプ後方の集合線に移動する。</p>

指揮者

整列が完了したら、「気をつけ、わかれ」と号令し、隊員の敬礼を待って答礼（挙手の敬礼）し、直ちに手をおろす。

1番員

1番員及び2番員は、集合線に集合し、自主整頓を行った後、「休め」の姿勢で待機する。

指揮者の「気をつけ、わかれ」の号令で姿勢を正して挙手敬礼を行い、指揮者が手をおろすのを待って手をおろす。

2番員

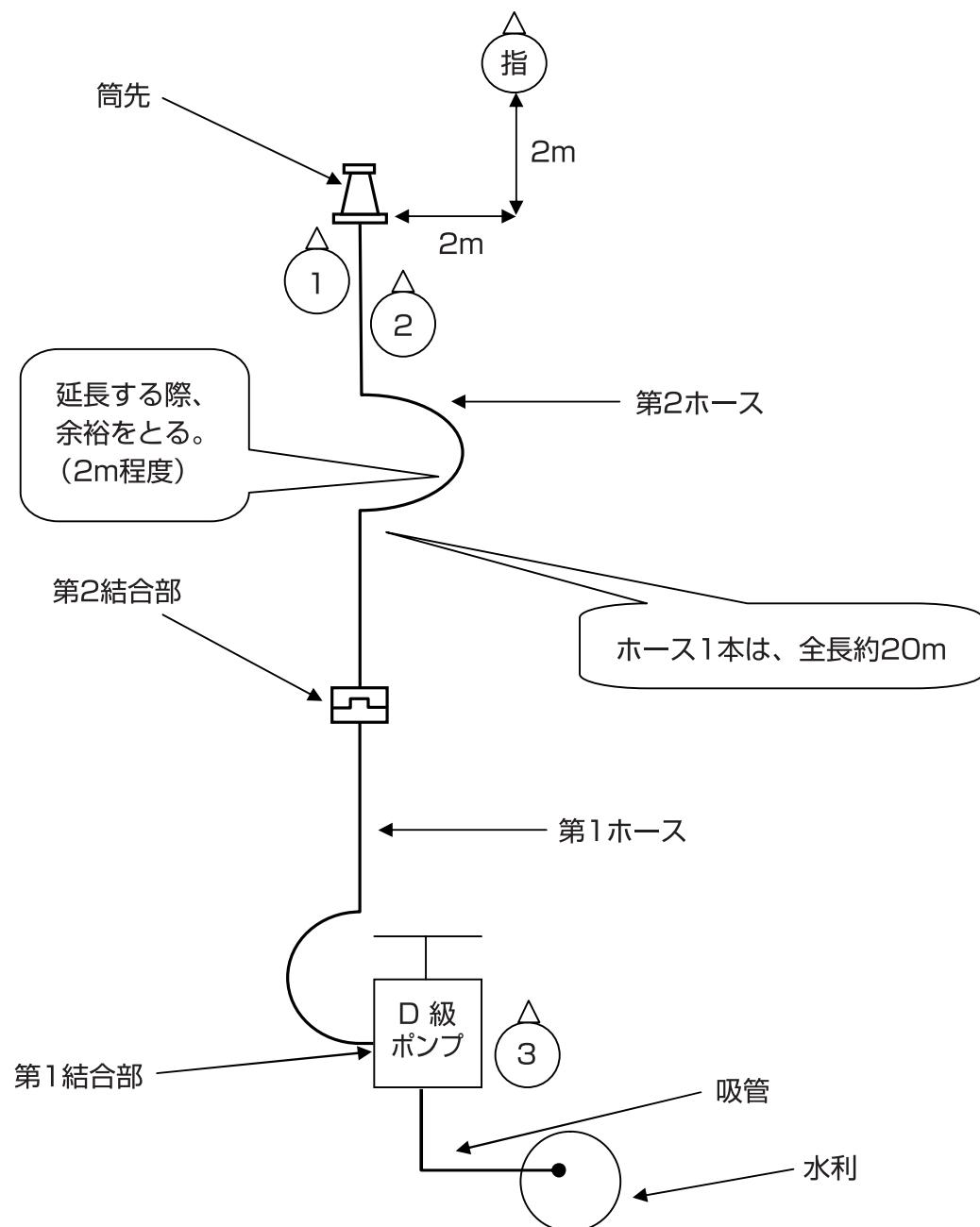


D級ポンプ操法（4名操法）

1

人員、資器材及び水利等

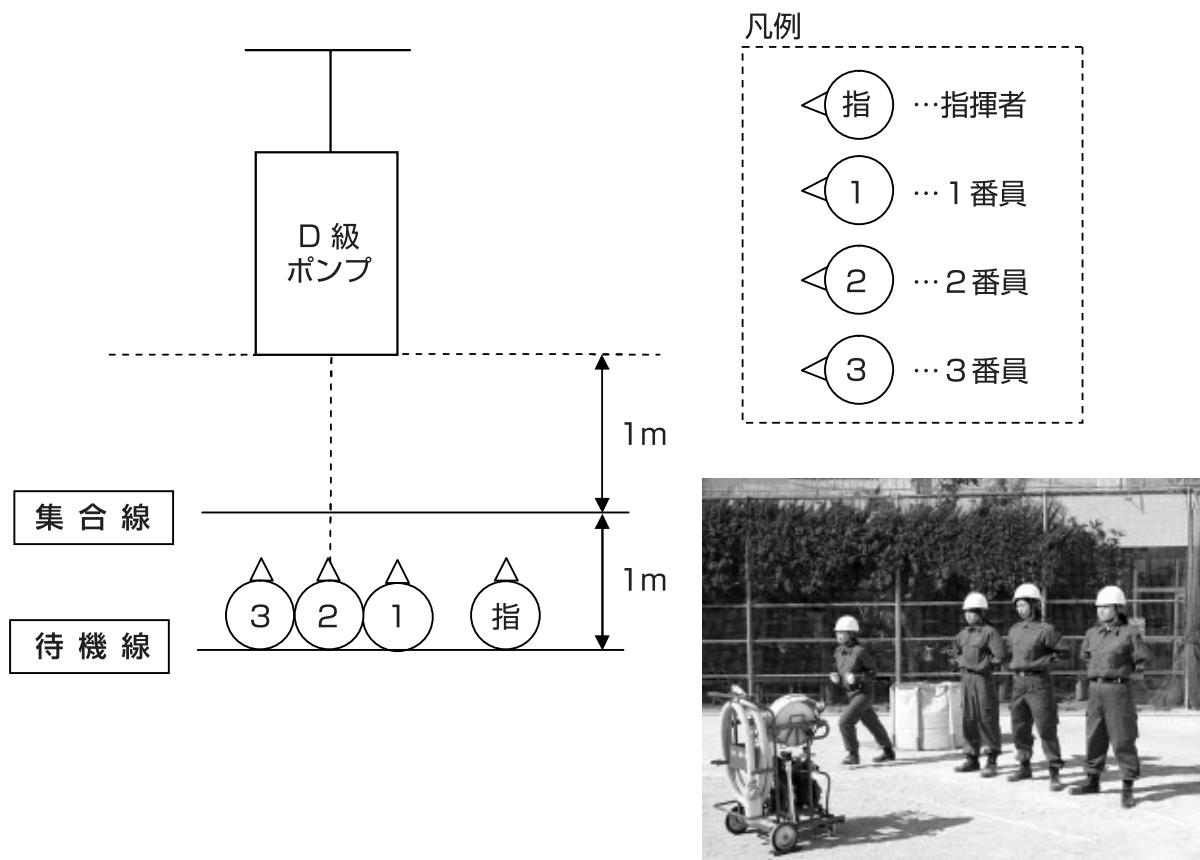
- (1) D級ポンプ操法（4名操法）に必要な人員は、指揮者1名、隊員3名とする。
- (2) D級ポンプを台車に積載した状態から操法を開始する。
- (3) 資器材は、二重巻きホース2本、筒先、吸管等を使用する。
- (4) 水利は、D級ポンプ(吸口側)から概ね2mの位置で、吸管を伸長しストレーナー部が水利に投入できる位置とする。
- (5) ホース延長及び吸管延長は次のとおりとする。



D級ポンプ操法（4名操法）

2 待機、集合及び点呼

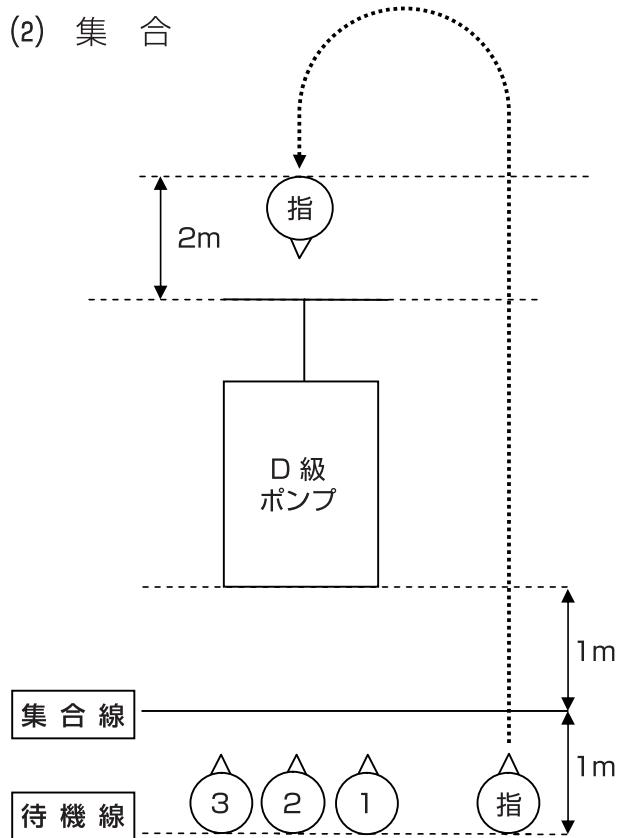
(1) 待 機



指揮者、1番員、2番員及び3番員は、集合線の後方1mの位置（待機線という。）で自主整頓を行った後、休めの姿勢で待機する。

指揮者の位置は、1番員から右側に1歩離れた位置とする。

(2) 集合

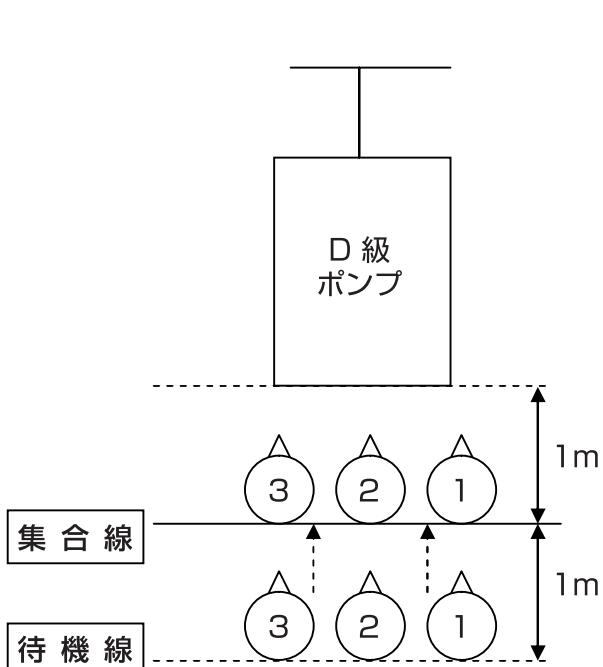


指揮者は、待機位置からポンプの右側を通り、ポンプの前方2mの位置で左に回り込んで、隊員に正対して姿勢を正す。

右手を上げ「集まれ」と号令をする（隊員が集合線に概ね揃ったら手をおろす）。



「集まれ」



1番員、2番員及び3番員は、指揮者の「集まれ」の号令に対して「よし」と呼称し、手を腰にとり駆け足で集合線に移動する。

移動後、自主整頓を行う。整頓が完了したら気をつけの姿勢をとる。



〈気をつけの姿勢〉

(3) 点呼

指揮者は、隊員が気をつけの姿勢をとったら、「番号」と号令をする。

1番員、2番員及び3番員は、指揮者の「番号」の号令で、それぞれ「1」、「2」、「3」と呼称する。

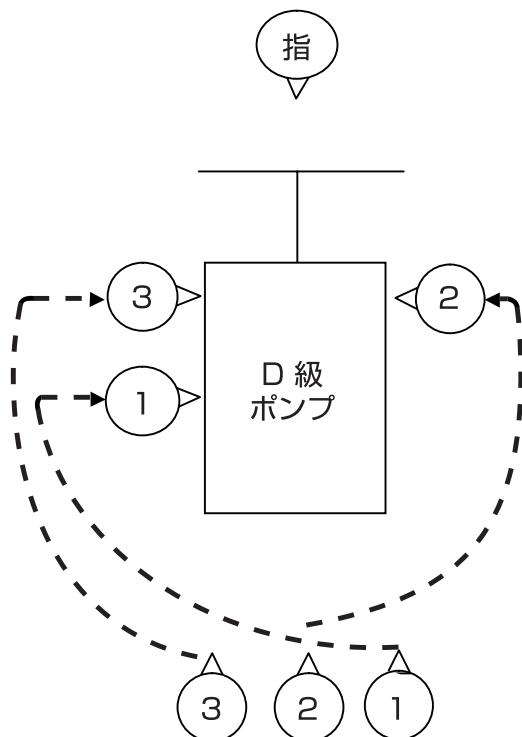
3

操法開始～収納

(1) 操法指示及び定位部署

指揮者は、「只今からD級ポンプ操法を行う」と操法を指示した後、「目標、前方の火点、定位につけ」と号令する。

1番員から3番員は、指揮者の「定位につけ」の号令に対して「よし」と呼称し、それぞれポンプ脇に移動する。移動後は、姿勢を正して待機する。



D級ポンプ操法(4名操法)

(2) 操法開始

指揮者	<p>定位についたことを確認した後、「操作始め」と号令する。その後、回れ右をして、1番員に先行して火点方向に向かう。</p> <p>放水位置の右斜め前方で停止し、火点（正面）を確認した後、大きく左に向きを変え、火点と各隊員の操作状況を確認出来る位置で姿勢を正す。</p>	
1番員	<p>「操作始め」に対し「よし」と呼称し、ポンプのホース棚から第2ホースを取り出し右脇に抱えた後、筒先を左手に持ち、第2結合部位置まで駆け足で進む。</p>	
2番員	<p>「操作始め」に対し「よし」と呼称し、吸管を3番員と協力してポンプ後方1mにおろした後、第1ホースを放口側におろして、ホースのメス結合部を右足で踏み、オス結合部を持ってホースを延ばす。</p> <p>※3番員だけで吸管を延ばすのが難しい場合は、2番員は吸管の延長を補助する。</p>	
3番員	<p>「操作始め」に対し「よし」と呼称し、吸管を2番員と協力してポンプ後方1mにおろした後、ヨリを戻しながら吸管を延ばす。</p> <p>その後、吸管を両足で挟むようにしてポンプの吸口に結合する。</p> <p>※一人で吸管を延ばすのが難しい場合は、2番員と協力して吸管の延長を行う。</p>	

指揮者	
1番員	<p>第2結合部位置で筒先と第2ホースを地面に置く。 ホースのメス結合部を右足で踏み、オス結合部を持ってホースを延ばす。 オス結合部を一旦地面に置き、左足でオス結合部を踏み、筒先を結合する。</p> 
2番員	<p>メス結合部をポンプの放口に結合した後、足元に注意しながらオス結合部を右手に持ち、駆け足で第2結合部位置に進む。</p> 
3番員	<p>吸管結合後、吸管ストレーナーを水利に投入し、エンジンを始動させ吸水処置を行う。</p> 

指揮者	
1番員	<p>結合後、筒先を左手で右脇に保持して、右手で余裕ホースをとり、前方を注視し、2番員のホース結合を待つ。</p> 
2番員	<p>第2結合部位置に至ったら、左足で第2ホースのメス結合部を踏み、第1ホースのオス結合部を結合し「よし」と呼称する。</p> 
3番員	<p>吸水完了後、ポンプ計器側で火点を向き、姿勢を正して待機する。</p> 

指揮者	<p>1番員のホース延長が終わる直前に右手で放水位置を指示し、「止まれ」と号令する。号令をした後、火点を向き姿勢を正す。</p>	 
1番員	<p>2番員の「よし」の合図で「放水始め」と号令し、火点に向かってホースを延ばす。 指揮者の「止まれ」の号令で停止し、余裕ホースを右手で横に投げる。 筒先を両手で保持し、左足を半歩踏み出し、前方を注視して注水姿勢をとる。</p>	 
2番員	<p>1番員の「放水始め」の号令を復唱し、回れ右をして駆け足で3番員に伝達に行く。 ポンプの手前10mの位置から右手を真上にあげて「放水始め」と呼称し、ポンプ手前2mの位置に至つたら、手をおろして止まる。</p>	
3番員	<p>2番員の「放水始め」の伝達に、右手を真上に上げて「放水始め」と復唱する。直ちに放水弁ハンドルを全開にするとともに、スロットルレバーを操作して送水を開始する。</p>	

指揮者	
1番員	
2番員	<p>伝達終了後、回れ右をして駆け足で戻り、1番員の後方に至り、「伝達終わり」と呼称する。その後、ホースを両手で保持し、右足を半歩前方に踏み出して筒先の補助をする。</p>
3番員	<p>送水操作終了後、ポンプ計器側で火点方向を向き姿勢を正して待機する。</p> <p>※送水中は、送水圧力に異常がないか、圧力計を適宜確認する。</p> 

(3) 放水停止

指揮者	<p>1番員の方向に向きを変え、「放水やめ」と号令する。</p>	
1番員	<p>指揮者の「放水やめ」の号令で筒先ノズルを操作して放水を停止する。ノズル操作後、「放水やめ」と復唱する。 3番員の「放水やめ」の復唱を確認したら、ノズル操作により残水を処理する。</p>	
2番員	<p>1番員の「放水やめ」に「よし」と呼称して、補助していたホースを地面におろし、回れ右をして駆け足でポンプの2m手前に至り停止、右手を水平に横に上げて「放水やめ」と3番員に伝達する。</p>	
3番員	<p>2番員の「放水やめ」の伝達を受け、右手を水平に横に上げて、「放水やめ」と復唱する。</p>	

指揮者	
1番員	<p>2番員の「伝達終わり」の呼称後、「よし」と合図して左足をひきつけ筒先のノズル側を右手で保持し姿勢を正す。</p> 
2番員	<p>伝達後、筒先補助位置に戻り、1番員に対し「伝達終わり」と呼称し、火点方向に向いて姿勢を正して待機する。</p> 
3番員	<p>スロットルレバーを元に戻し、直ちに放水弁ハンドルを閉じ、エンジンを停止する。 停止後、ポンプ計器側で火点に正対し、姿勢を正して待機する。</p>  

(4) 収 納

指揮者	1番員、2番員及び3番員の待機状況を確認後、「おさめ」と号令をする。
1番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令後、ホースの結合部を右足で踏み、両手で筒先をホースからはずす。 筒先を持ってポンプまで移動し、筒先を所定位置におさめ、集合線に移動する。</p>  
2番員	指揮者の「おさめ」の号令で回れ右をして、ポンプ後方の集合線に移動する。
3番員	指揮者の「おさめ」の号令で第1ホースを離脱し、ポンプ後方の集合線に移動する。

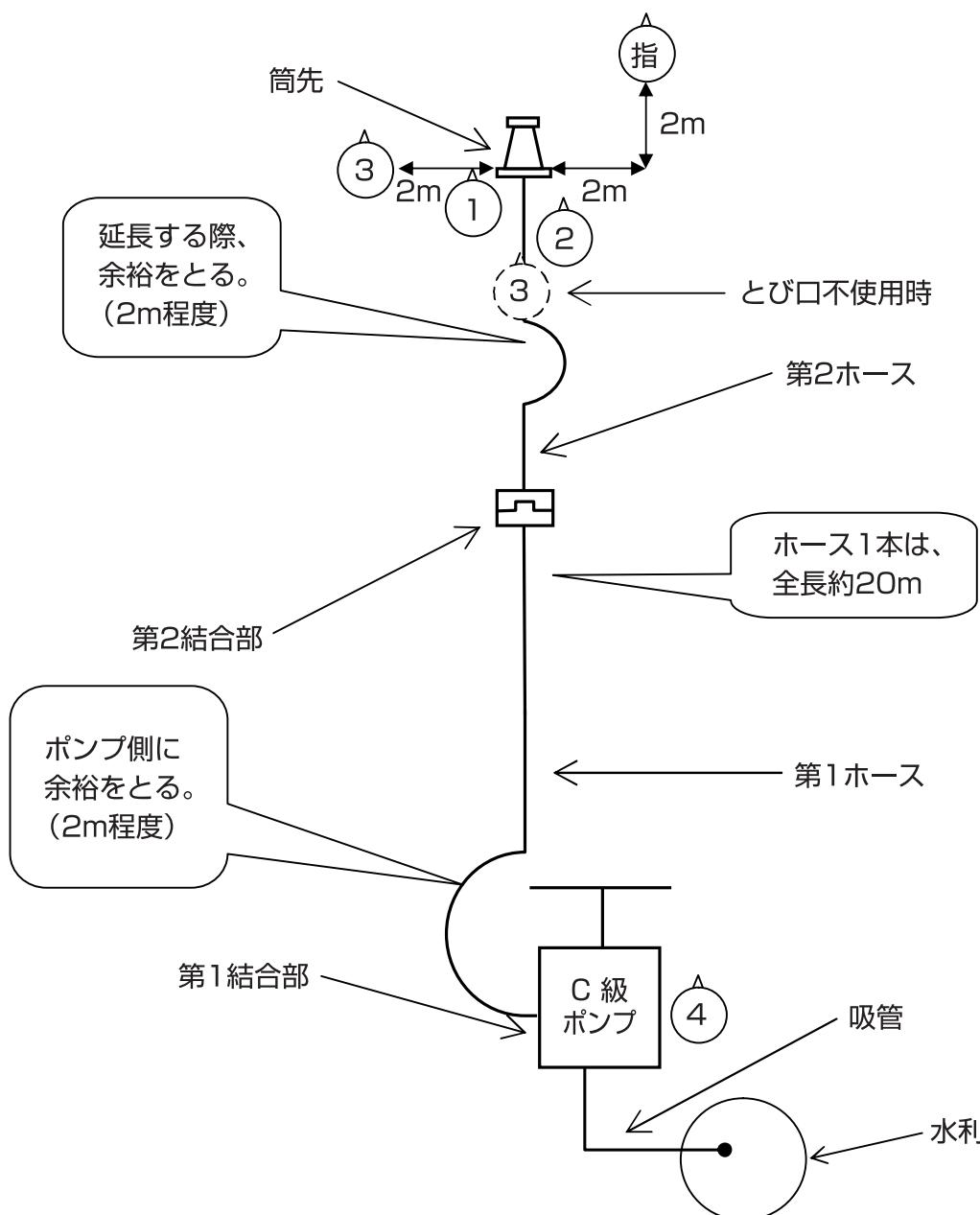
指揮者	<p>ポンプ前2mの位置に駆け足で戻り、姿勢を正して、1番員、2番員及び3番員の整列が終了するの待つ。</p> <p>整列が完了したら「気をつけ、わかれ」と号令し、隊員の敬礼を待って答礼（拳手の敬礼）し、直ちに手をおろす</p>
1番員	<p>1番員、2番員及び3番員は、集合線に集合し、自主整頓を行った後、自主整頓をして「休め」の姿勢で待機する。</p> <p>指揮者の「気をつけ、わかれ」の号令で姿勢を正して拳手の敬礼を行い、指揮者が手をおろすのを待って手をおろす。</p>
2番員	
3番員	

C級ポンプ操法（5名操法）

1

人員、資器材及び水利等

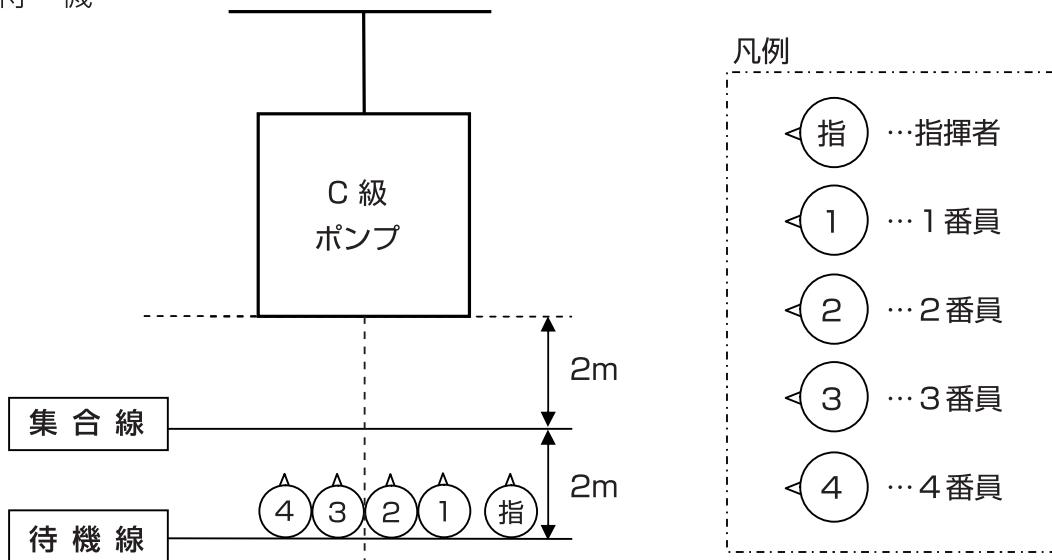
- (1) C級ポンプ操法（5名操法）に必要な人員は、指揮者1名、隊員4名とする。
- (2) C級ポンプを台車に積載した状態から操法を開始する。
- (3) 資器材は、二重巻ホース2本、筒先、吸管等を使用する。
- (4) 水利は、C級ポンプ（吸口側）側面から2mの位置で、吸管を伸長しストレーナー部が水利に投入できる位置とする。
- (5) ホース延長及び吸管延長は次のとおりとする。



2

待機、集合及び点呼

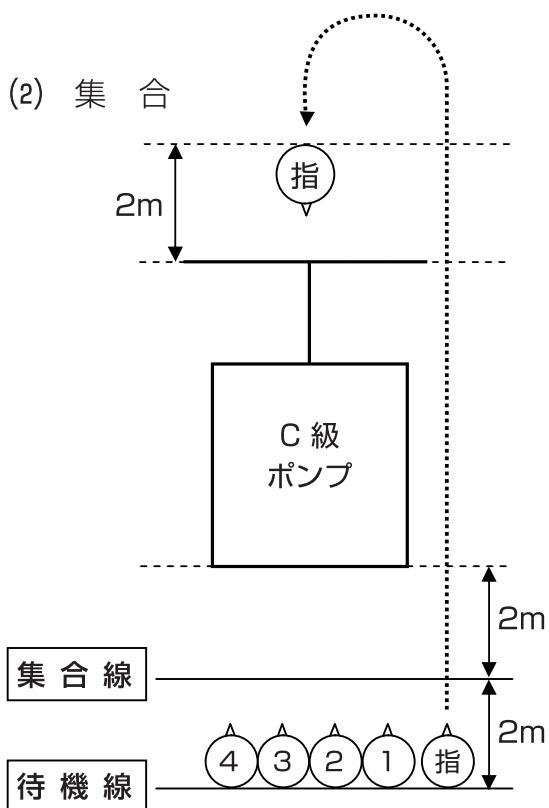
(1) 待 機



指揮者、1番員から4番員は、集合線の後方2mの位置（待機線という。）で、2番員と3番員の間がポンプの中心となるように自主整頓を行った後、休めの姿勢で待機する。指揮者の位置は、1番員から右側に1歩離れた位置とする。



(2) 集 合



指揮者は、待機位置からポンプの右側を通り、ポンプの前方2mの位置で左に回り込んで、隊員に正対して姿勢を正す。

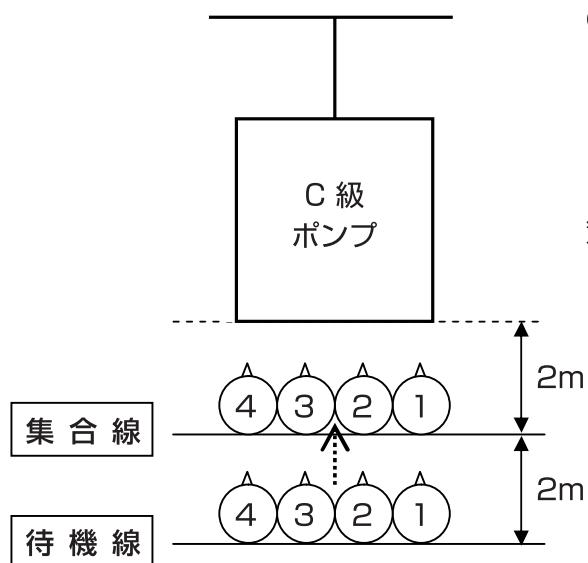
右手を上げ「集まれ」と号令をする（隊員が集合線に概ね揃ったら手をおろす）。



C級ポンプ操法(5名操法)

1番員から4番員は、指揮者の「集まれ」の号令に対して「よし」と呼称し、手を腰にとり駆け足で集合線に移動する。

移動後、2番員から4番員は右手を腰にとって自主整頓を行い、整頓が完了したら気をつけの姿勢をとる。



(3) 点呼

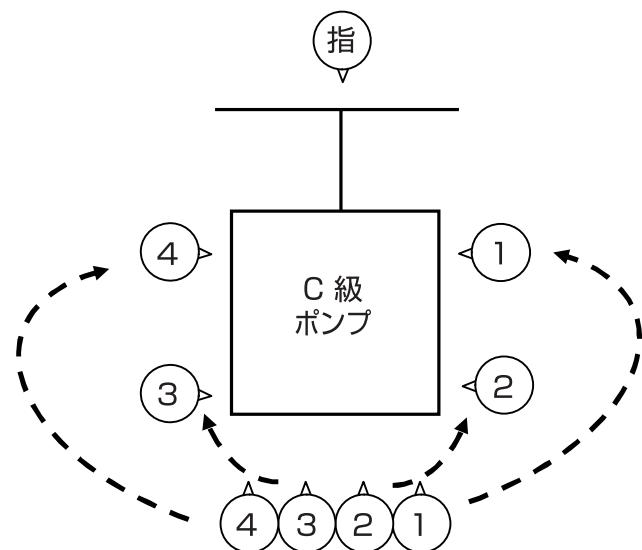
指揮者は、隊員が気をつけの姿勢をとったら、「番号」と号令する。1番員から4番員は、指揮者の「番号」の号令で、それぞれ「1」、「2」、…と呼称する。

3 操法開始～収納

(1) 操法指示及び定位部署

指揮者は、「只今からC級ポンプ操法を行う」と操法を指示した後、「目標、前方の火点、定位につけ」と号令する。

1番員から4番員は、指揮者の「定位につけ」の号令に対して「よし」と呼称し、それぞれポンプ脇に移動する。移動後は、姿勢を正して待機する。



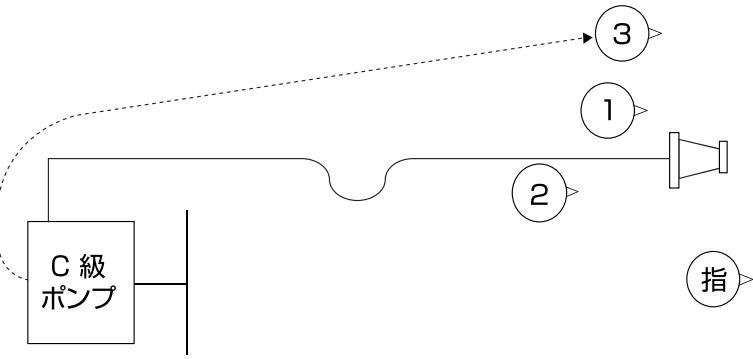
C級ポンプ操法(5名操法)

(2) 操法開始

指揮者	<p>1番員から4番員が定位についてことを確認した後、「操作始め」と号令する。その後、回れ右をして、1番員に先行して火点方向に向かう。</p>
1番員	<p>1番員から4番員は、「よし」と呼称後、近くの吸管止め金をはずし、全員で協力して吸管を持ち上げ、ポンプ後方1mの位置に搬送し、一旦地面に置いた後、ヨリを戻しながら吸管を延ばす。 吸管を延ばし終えたら、4番員は「よし」と合図する。</p>
2番員	
3番員	
4番員	

指揮者	
1番員	<p>4番員の「よし」の合図後、筒先を背負い第2ホースを左肩にかついで第2結合部位置まで駆け足で進む。</p>  
2番員	<p>4番員の「よし」の合図後、第1ホースを放口側におろしてホースのメス結合部を右足で踏み、オス結合部を持ってホースを延ばす。</p> 
3番員	<p>4番員の「よし」の合図後、吸管を両足で挟むようにして4番員の吸管結合を補助する。</p> 
4番員	<p>3番員と協力し、吸管結合部を両手で持ち、吸管を吸口に結合する。</p> 

指揮者	<p>放水位置の右斜め前方で停止し、火点(正面)を確認した後、大きく左に向きを変え、火点と各隊員の操作状況を確認出来る位置で姿勢を正す。</p>
1番員	<p>第2結合部位置まで来たら、筒先とホースを地面に置く。 ホースのメス結合部を右足で踏み、オス結合部を持ってホースを延ばす。 オス結合部を一旦地面に置き、左足でオス結合部を踏み、筒先を結合する。</p>  
2番員	<p>概ね2mの余裕ホースをとつてメス結合部をポンプの放口に結合した後、足元に注意しながらオス結合部を右手に持ち、駆け足で第2結合部位置に進む。</p>  
3番員	<p>吸管ひかえ綱を解き、4番員と協力し、吸管を水利に投入する。 吸管投入後、ひかえ綱をポンプに結び、吸管屈曲部に枕木をあてる。</p>  
4番員	<p>3番員と協力し、吸管を水利に投入後、エンジンを始動させ吸水処置を行う。</p> 

指揮者	
1番員	<p>筒先を左手で保持して、右手で余裕ホースをとり、前方を注視し、2番員のホース結合を待つ。</p> <p>2番員の「よし」の合図で「放水始め」と号令し、筒先を持って火点に向かってホースを延ばす。</p>  
2番員	<p>第2結合部位置に至ったら、左足で第2ホースのメス結合部を踏み、第1ホースのオス結合部を結合し「よし」と呼称する。</p>  
3番員	<p>とび口積載位置から、とび口を取り、左手でとび口の柄の中央部付近を持ち、左脇に抱えとび口を下向きにして、駆け足でホースラインに沿って1番員の左横2mの位置に至って停止する。</p> 
4番員	<p>吸水完了後、ポンプ計器側で火点を向き、姿勢を正して待機する。</p> 

指揮者	<p>1番員のホース延長が終わる直前に「止まれ」と号令する。</p>
1番員	<p>指揮者の「止まれ」の号令で停止して、余裕ホースを右手で横に投げる。</p> 
2番員	<p>1番員の「放水始め」を復唱し、回れ右をして駆け足で4番員に伝達に行く。 ポンプの10m手前の位置から右手を真上に上げて、「放水始め」と呼称する。ポンプの手前2mの位置に至ったら、手をおろして止まる。</p> 
3番員	<p>とび口は、垂直に構えた状態から概ね45度の前方に傾ける。左手は柄の中心部付近を握り、腕を前方に真っ直ぐ伸ばし、左足を一步前に踏み出す。右手は柄の後端から約10cm付近を握って右腰部にあて、左足をやや曲げて、前方に体重をかけた前傾姿勢をとる。</p> <p>とび口不使用時は、吸管に枕木を取り付け後、駆け足でホースラインに沿って火点方向に向かい、2番員より2m後方でホースを地面に両手で押さえ（または、2番員の左斜め後方でホースを両手で保持し左足を半歩前に踏み出し）、筒先の補助にあたる。</p>
4番員	<p>2番員の「放水始め」の伝達に、右手を真上に上げ「放水始め」と復唱する。直ちに放水弁ハンドルを全開にするとともに、スロットダイヤルを操作して送水を開始する。</p> 

指揮者	<p>放水を開始したら、再び火点方向を向き姿勢を正す。</p> 
1番員	<p>筒先を両手で保持し2~3歩すり足で前進し、前方を注視して注水姿勢をとる。</p> 
2番員	<p>伝達終了後、回れ右で1番員の後方に至り「伝達終わり」と呼称した後、ホースを両手で保持し、右足を半歩前方に踏み出し、筒先の補助にあたる。</p> 
3番員	
4番員	<p>送水操作終了後、ポンプ計器側で火点方向を向き姿勢を正して待機する。 ※送水中は、送力圧力に異常がないか、圧力計を適宜確認する。</p>

(3) 放水停止

指揮者	1番員の方向に向きを変え、「放水やめ」と号令する。	
1番員	<p>指揮者の「放水やめ」の号令で筒先ノズルを操作して放水を停止する。</p> <p>放水停止確認後、「放水やめ」と復唱する。4番員の「放水やめ」の復唱を確認したら、筒先を下げてノズル操作により残水を処理する。</p>	
2番員	<p>1番員の「放水やめ」の復唱に「よし」と呼称して後方に向きを変え、ポンプの2m手前に至り停止、右手を水平に横に上げて「放水やめ」と4番員に伝達する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>3番員がとび口を使わない場合は、1番員の「放水やめ」の復唱後も筒先補助を続ける。</p> </div>	
3番員	<p>(1番員の「放水やめ」に対する) 2番員の「よし」の復唱後、左足を右足に引き付け、とび口を右足側に立てる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>とび口不使用時は、1番員の「放水やめ」の復唱に「よし」と呼称して後方に向きをかえ、ポンプの2m手前に至り停止、右手を水平に横に上げて「放水やめ」と伝達する。伝達後、筒先補助位置に至り、1番員に「伝達終わり」と呼称する。</p> </div>	
4番員	<p>2番員（または3番員）の「放水やめ」の伝達を受け、右手を水平に横に上げて、「放水やめ」と復唱する。スロットダイヤルを元に戻し、直ちに放水弁ハンドルを閉じ、エンジンを停止する。</p> <p>停止後、ポンプ計器側で火点に正対し、姿勢を正して待機する。</p>	

指揮者	
1番員	<p>2番員（または3番員）の「伝達終わり」の呼称後、「よし」と合図して、左足をひきつけ、筒先の先端を持って右足側に立て姿勢を正す。</p>
2番員	<p>伝達後、筒先補助位置に至り、1番員に「伝達終わり」と呼称する。</p> <p>3番員がとび口を使わない場合は、1番員の残水処理が完了したのを確認後、ホースを地面におろし姿勢を正す。</p>
3番員	
4番員	<p>停止後、ポンプ計器側で火点に正対し、姿勢を正して待機する。</p>

(4) 収 納

指揮者	<p>1番員の筒先からの残水が抜け全員が姿勢を正すのを確認後、「おさめ」と号令する。</p> <p>号令後、1番員が筒先を背負って戻るのを確認してから、ポンプ前2mの位置に駆け足で戻り、姿勢を正して、1番員から4番員の整列が終了するのを待つ。</p>	
1番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令後、ホースの結合部を右足で踏み、両手で筒先をホースからはずして背負い、ポンプの筒先収納位置までホースラインに沿って移動する。</p> <p>筒先を収納後、集合線に戻り「休め」の姿勢で待機する。</p>	
2番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令で、ポンプ方向に向きを変え、ホースラインに沿って集合線に戻り「休め」の姿勢で待機する。</p>	
3番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令で、ポンプ方向に向きを変え、左手でとび口の柄の中央部付近を持ち、とび口を下向きにして、左脇に抱えて、ポンプに至り、とび口を収納後、集合線に戻り「休め」の姿勢で待機する。</p> <p>とび口不使用時は、2番員と同じ動作</p>	
4番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令で、第1ホースを離脱して、その場に置き、資器材を点検後、集合線に戻り「休め」の姿勢で待機する。</p>	

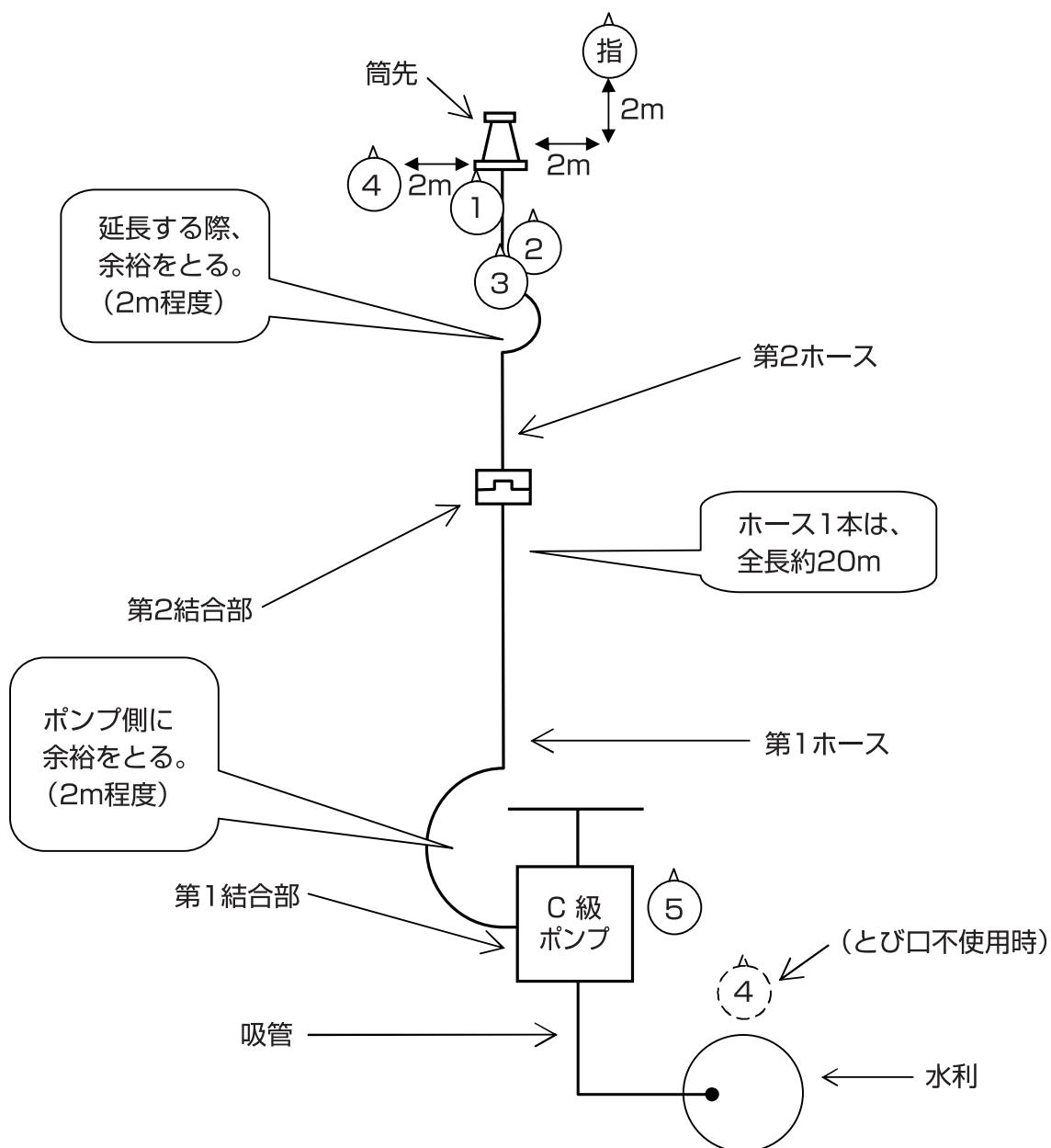
指揮者	<p>指揮者は「気をつけ、わかれ」と号令し、隊員の敬礼を待って答礼（挙手の敬礼）し、直ちに手をおろす。</p>
1番員	<p>1番員から4番員は、指揮者の「気をつけ、わかれ」の号令で姿勢を正して挙手敬礼を行い、指揮者が手をおろすのを待って手をおろす。</p>
2番員	
3番員	
4番員	

C級ポンプ操法（6名操法）

1

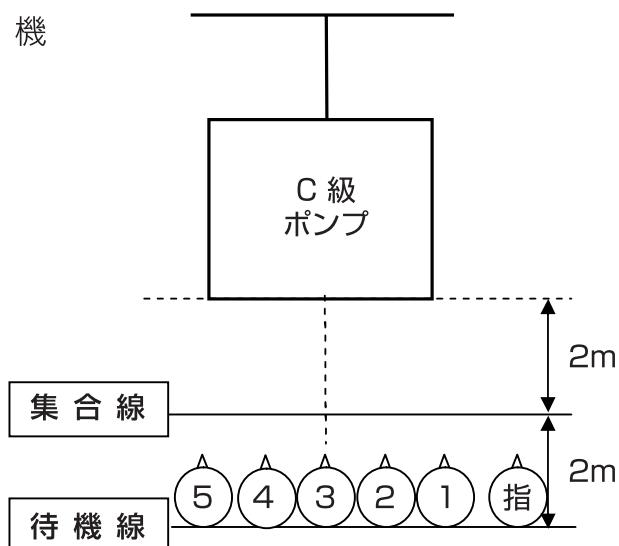
人員、資器材及び水利等

- (1) C級ポンプ操法（6名操法）に必要な人員は、指揮者1名、隊員5名とする。
- (2) C級ポンプを台車に積載した状態から操法を開始する。
- (3) 資器材は、二重巻ホース2本、筒先、吸管等を使用する。
- (4) 水利は、C級ポンプ（吸口側）側面から概ね2mの位置で、吸管を伸長しストレーナー部が水利に投入できる位置とする。
- (5) ホース延長及び吸管延長は次のとおりとする。



2 待機、集合及び点呼

(1) 待 機



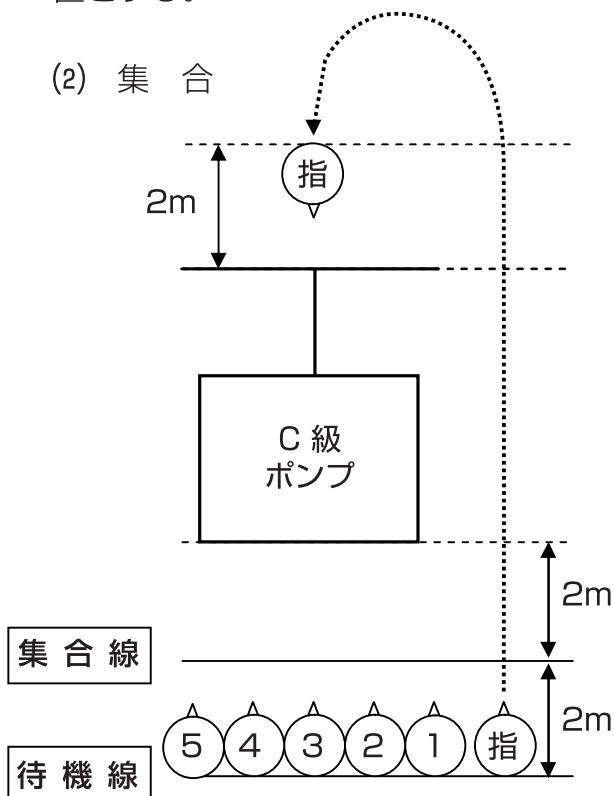
凡例

- △ 指 … 指揮者
- △ 1 … 1番員
- △ 2 … 2番員
- △ 3 … 3番員
- △ 4 … 4番員
- △ 5 … 5番員

指揮者、1番員から5番員は、集合線の後方2mの位置（待機線という。）で、3番員がポンプの中心となるように自主整頓を行った後、休めの姿勢で待機する。指揮者の位置は、1番員から右側に1歩離れた位置とする。

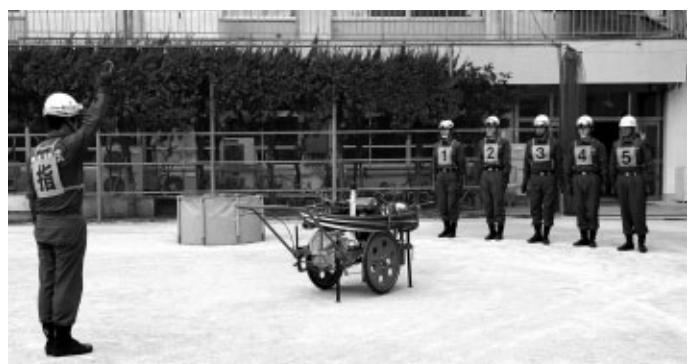


(2) 集 合



指揮者は、待機位置からポンプの右側を通り、ポンプの前方2mの位置で左に回り込んで、隊員に正対して姿勢を正す。

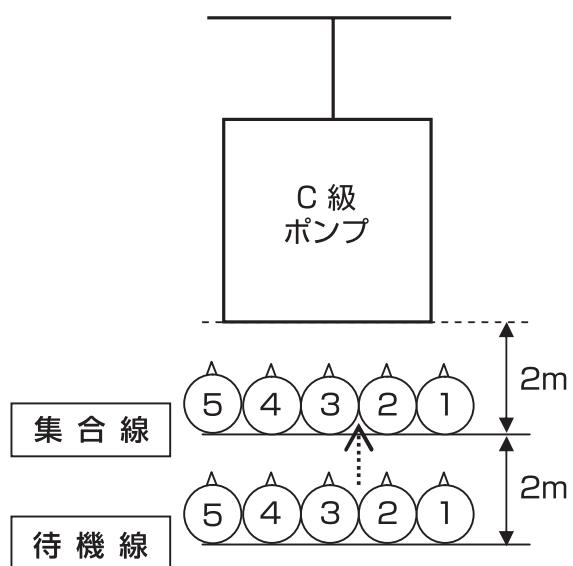
右手を上げ、「集まれ」と号令をする（隊員が集合線に概ね揃ったら手をおろす）。



「集まれ」

1番員から5番員は、指揮者の「集まれ」の号令に対して「よし」と呼称し、手を腰にとり駆け足で集合線に移動する。

移動後、2番員から5番員は右手を腰にとって自主整頓を行い、整頓が完了したら気をつけの姿勢をとる。



<自主整頓>

(3) 点呼

指揮者は、隊員が気をつけの姿勢をとったら、「番号」と号令する。1番員から5番員は、指揮者の「番号」の号令で、それぞれ「1」、「2」、…と呼称する。

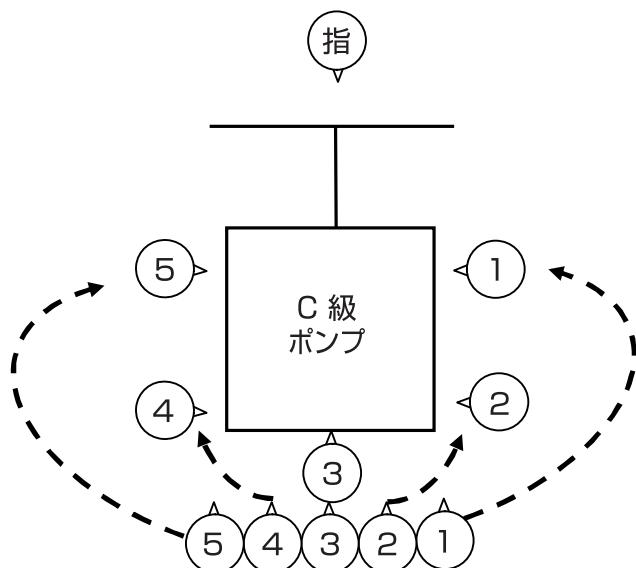
3

操法開始～収納

(1) 操法指示及び定位部署

指揮者は、「只今からC級ポンプ操法を行う」と操法を指示した後、「目標、前方の火点、定位につけ」と号令する。

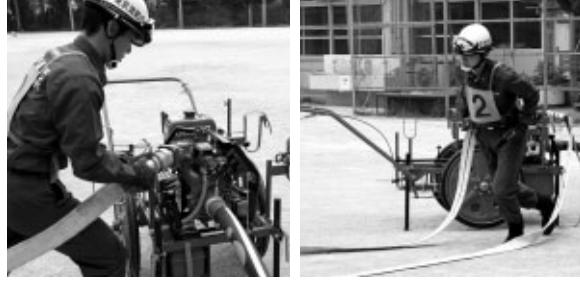
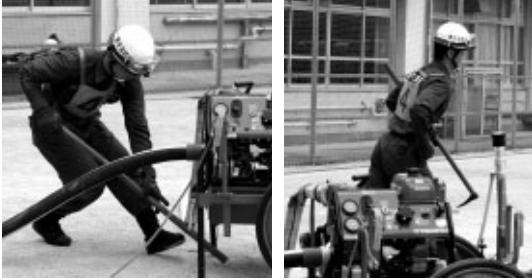
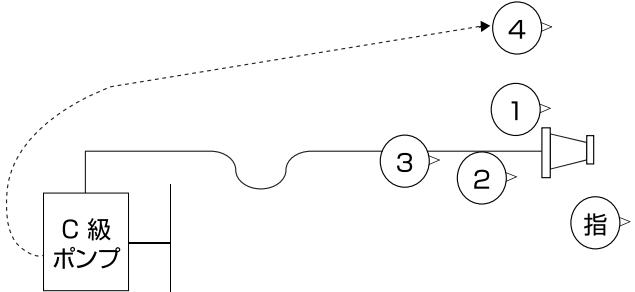
1番員から5番員は、指揮者の「定位につけ」の号令に対して「よし」と呼称し、それぞれポンプ脇に移動する。移動後は、姿勢を正して待機する。



(2) 操法開始

指揮者	1番員から5番員が定位についてことを確認した後、「操作始め」と号令する。その後、回れ右をして、1番員に先行して火点方向に向かう。
1番員	1番員から5番員は、「よし」と呼称後、近くの吸管止め金をはずし、全員で協力して吸管を持ち上げ、ポンプ後方1mの位置に搬送し、一旦地面に置いた後、ヨリを戻しながら吸管を延ばす。 吸管を延ばし終えたら、5番員は「よし」と合図する。
2番員	
3番員	
4番員	
5番員	

指揮者	
1番員	<p>5番員の「よし」の合図後、筒先を背負い第2ホースを左肩にかついで第2結合部位置まで駆け足で進む。</p>  
2番員	<p>5番員の「よし」の合図後、第1ホースを放口側におろしてホースのメス結合部を右足で踏み、オス結合部を持ってホースを延ばす。</p> 
3番員	<p>5番員の「よし」の合図後、吸管を両足で挟むようにして4番員の吸管結合を補助する。</p> 
4番員	<p>5番員の「よし」の合図後、3番員と協力し、吸管結合部を両手で持ち、吸管を吸口に結合する。</p> 
5番員	<p>吸管ひかえ綱を解き、吸管を水利に投入後、ひかえ綱をポンプに結び、エンジンを始動させ吸水処置を行う。</p>  

指揮者	放水位置の右斜め前方で停止し、火点(正面)を確認した後、大きく左に向きを変え、火点と各隊員の操作状況を確認出来る位置で姿勢を正す。	
1番員	<p>第2結合部位置まで来たら、筒先とホースを地面に置く。</p> <p>ホースのメス結合部を右足で踏み、オス結合部を持ってホースを延ばす。</p> <p>オス結合部を一旦地面に置き、左足でオス結合部を踏み、筒先を結合する。</p>	 
2番員	概ね2mの余裕ホースをとってメス結合部をポンプの放口に結合した後、足元に注意しながらオス結合部を右手に持ち、駆け足で第2結合部位置に進む。	
3番員	<p>5番員が吸管を投入した後、吸管屈曲部に枕木をあてる。</p> <p>とび口不使用時は、4番員が枕木をあてる。</p>	
4番員	とび口積載位置から、とび口を取り、左手でとび口の柄の中央部付近を持ち、左脇に抱えとび口を下向きにして、駆け足でホースラインに沿って1番員の左横2mの位置に至って停止する。	
5番員	吸水完了後、ポンプ計器側で火点を向き、姿勢を正して待機する。	

C級ポンプ操法(6名操法)

指揮者	
1番員	<p>筒先を左手で保持して、右手で余裕ホースをとり、前方を注視し、2番員のホース結合を待つ。2番員の「よし」の合図で「放水始め」と号令し、筒先を持って火点に向かってホースを延ばす。</p>
2番員	<p>第2結合部位置に至ったら、左足で第2ホースのメス結合部を踏み、第1ホースのオス結合部を結合し「よし」と呼称する。</p>
3番員	<p>枕木をあてた後、筒先の補助にあたるため、2番員の後方に至る。</p> <p>とび口不使用時は、吸管結合完了後、2番員の後方に至る。</p>
4番員	<p>とび口不使用時は、吸管屈曲部に枕木をあて、その後、水利位置で吸水状況の監視を行う。</p>
5番員	

指揮者	1番員のホース延長が終わる直前に「止まれ」と号令する。
1番員	<p>指揮者の「止まれ」の号令で停止して、余裕ホースを右手で横に投げる。</p> 
2番員	<p>1番員の「放水始め」を復唱し、回れ右をして駆け足で5番員に伝達に行く。</p> <p>ポンプの10m手前の位置から右手を真上に上げて、「放水始め」と呼称する。ポンプの手前2mの位置に至ったら、手をおろして止まる。</p> 
3番員	
4番員	
5番員	<p>2番員の「放水始め」の伝達に、右手を真上に上げ「放水始め」と復唱する。直ちに放水弁ハンドルを全開にするとともに、スロットダイヤルを操作して送水を開始する。</p> 

指揮者	放水を開始したら、再び火点方向を向き姿勢を正す。	
1番員	筒先を両手で保持し2~3歩すり足で前進し、前方を注視して注水姿勢をとる。	
2番員	伝達終了後、回れ右で1番員の後方に至り「伝達終わり」と呼称した後、ホースを両手で保持し、右足を半歩前方に踏み出し、筒先の補助にあたる。	
3番員	2番員より2m後方でホースを地面に両手で押え（または、2番員の左斜め後方でホースを両手で保持し左足を半歩前に踏み出し）、筒先の補助にあたる。	
4番員	とび口は、垂直に構えた状態から概ね45度の前方に傾ける。左手は柄の中心部付近を握り、腕を前方に真っ直ぐ伸ばし、左足を一步前に踏み出す。右手は柄の後端から約10cm付近を握って右腰部にあて、左足をやや曲げて、前方に体重をかけた前傾姿勢をとる。 とび口不使用時は、水利位置で吸水状況の監視を行う。	
5番員	送水操作終了後、ポンプ計器側で火点方向を向き姿勢を正して待機する。 ※送水中は、送力圧力に異常がないか、圧力計を適宜確認する。	

(3) 放水停止

指揮者	1番員の方向に向きを変え、「放水やめ」と号令する。	
1番員	<p>指揮者の「放水やめ」の号令で筒先ノズルを操作して放水を停止する。</p> <p>放水停止確認後、「放水やめ」と復唱する。5番員の「放水やめ」の復唱を確認したら、筒先を下げるノズル操作により残水を処理する。</p>	
2番員		
3番員	<p>指揮者の「放水やめ」の号令で姿勢を正し、待機する。</p> <p>1番員の「放水やめ」の復唱に「よし」と呼称して後方に向きを変え、ポンプの2m手前に至り停止、右手を水平に横に上げ「放水やめ」と伝達する。</p>	
4番員	<p>「放水やめ」に対する3番員の「よし」の復唱後、左足を右足に引き付け、とび口を右足側に立てる。</p> <p>とび口不使用時は、水利位置で姿勢を正して待機</p>	
5番員	<p>3番員の「放水やめ」の伝達を受け、右手を水平に横に上げて、「放水やめ」と復唱する。スロットダイヤルを元に戻し、直ちに放水弁ハンドルを閉じ、エンジンを停止する。</p> <p>停止後、ポンプ計器側で火点に正対し、姿勢を正して待機する。</p>	

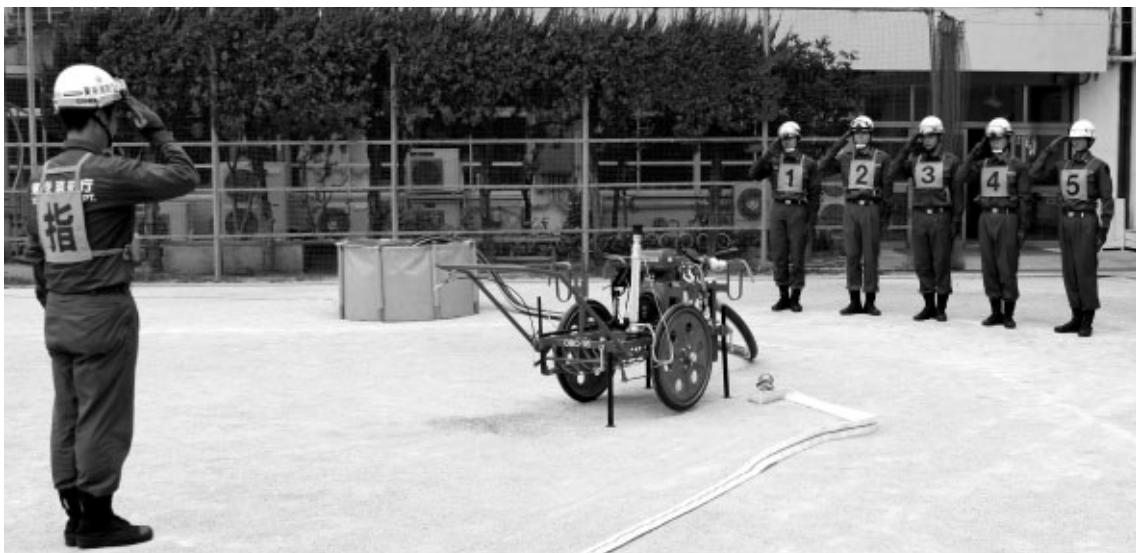
指揮者	
1番員	3番員の「伝達終わり」の呼称後、「よし」と合図して、左足をひきつけ、筒先の先端を持って右足側に立て姿勢を正す。
2番員	1番員の「よし」の合図後、姿勢を正して待機する。
3番員	伝達後、筒先補助位置に至り、1番員に「伝達終わり」と呼称する。
4番員	
5番員	



(4) 収 納

指揮者	<p>1番員の筒先からの残水が抜け全員が姿勢を正すのを確認後、「おさめ」と号令する。</p> <p>号令後、1番員が筒先を背負って戻るのを確認してから、ポンプ前2mの位置に駆け足で戻り、姿勢を正して、1番員から5番員の整列が終了するのを待つ。</p>	
1番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令後、ホースの結合部を右足で踏み、両手で筒先をホースからはずして背負い、ポンプの筒先収納位置までホースラインに沿って移動する。</p> <p>筒先を収納後、集合線に戻り「休め」の姿勢で待機する。</p>	 
2番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令で、ポンプ方向に向きを変え、ホースラインに沿って集合線に戻り「休め」の姿勢で待機する。</p>	
3番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令で、ポンプ方向に向きを変え、ホースラインに沿って集合線に戻り「休め」の姿勢で待機する。</p>	
4番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令で、ポンプ方向に向きを変え、左手でとび口の柄の中央部付近を持ち、とび口を下向きにして、左腋に抱えて、ポンプに至り、とび口を収納後、集合線に戻り「休め」の姿勢で待機する。</p> <p>とび口不使用時は、水利位置から集合線に戻る。</p>	
5番員	<p>指揮者の「おさめ」の号令で、第1ホースを離脱して、その場に置き、資器材を点検後、集合線に戻り「休め」の姿勢で待機する。</p>	

指揮者	指揮者は「気をつけ、わかれ」と号令し、隊員の敬礼を待って答礼（拳手の敬礼）し、直ちに手をおろす。
1番員	1番員から5番員は、指揮者の「気をつけ、わかれ」の号令で姿勢を正して拳手敬礼を行い、指揮者が手をおろすのを待って手をおろす。
2番員	
3番員	
4番員	
5番員	



ポンプ操法マニュアル

発 行 平成 24 年 2 月

製作・著作 品 川 区

製作協力 品川消防署
大井消防署
荏原消防署

古紙を配合した紙を使用しています。